

模型飛行機クラブ会報 **Launchers** 2008年7-8月号

2008年記録会は8月17日(日)グリーンパーク(9:00 ~ 12:00)・ちびた号大会です!

2008年記録会は9月21日(日)未定 (9:00 ~ 12:00)です!

秋がちかづき稲が黄金色になる季節、いつもならワクワクしてくる時期ですが、今年はそんなにノテンキにドキドキするわけにはゆきません。FF環境も少しずつ変わってきて、これまでなら当然であった世界選手権へのフルエントリーモードも変わってきました。来年のFF世界選開催地はヨーロッパの宝石と言われるクロアチアですが、これまでほどの盛り上がりがありません。この事は簡単には勝てない事への反動なのか、マンネリや高齢化の影響なのかと心配です。

誰でも参加出来る中型機クラスの競技会も昔ほどのニギワイがなくなりました。1つには国内級と国際級の住み分けが進んだせいかも知れません。その反動なのかLPやHLG部門は参加人数がしだいに増えて、賑やかになってきました。この原因の1つには、このクラスは自作がほとんどであり、「全部自分」である事の面白さのせいかも知れません。いつの世も、誰に煩わされる事もなく、たった1人で「考え、作って飛ばして」の楽しみに回帰したのか、それとも全然違うことなのか……。

記録会報告	08年6月記録会HLG / PLG、 新潟ランチャーズ合宿記	08年7月記録会HLG / PLG、
お知らせ	まったけ大会案内	
FFサロン	滞空性能と空気密度 石井満 学童保育・飛行機教室 平尾	コンデジ用ファインター製作 平尾 展開 90cmUHLG 平尾
雑談天国	羅城	
メンバー情報		
編集後記		

2008年6月記録会の結果(HLG - B / CLG)

6月HLG記録会報告

平尾……

この日は運良く梅雨の中休みで薄曇り弱風、且つ、公園の人も少なく好条件に恵まれ楽しい記録会となりました。公園が狭いので今ひとつ競技で楽しめないのか、最近のグリーンパーク記録会は集まりがやや低調で12名でした。しかし、ここでの記録会は大宮田んぼと違った趣きがあります。40秒マックスなので、みんなあっさりとして投げた競技も早く終るし、ビールも売っているし……。

勝負の方は当然ながら「強肩」有利です。しかし、そのまんまではなんにも面白くない。HLGには体重別や年令ハンディーがないし、老練なワザと言ってもタカが知れてます。又、ヒコーキで差を付けるとしてもせいぜい2~3秒が限度です。そうは言っても何かやらねば……。そう思って前回記録会から小型機に翼端フックを付けて飛ばしていたが、石井満氏の機体を見るとさらに小型のHLG - Bでもフックが「効く」らしい。そこで今回用に作ったフラップ翼振り投げHLG - B(5、6月号で発表)で挑戦した。練習では「勝てる」と思ったが、力もある野球投げ選手は肩が温まってくるに従い「老人は死ぬ」とマックスを連発します。だけど、そう簡単には死ぬんわナ……と言った記録会でした。

さて、競技は強肩の野球投げ連中が後半ジリジリと記録を伸ばして菅野選手が198秒、井村選手が190秒の3位、似合わないのに野球投げをやっている三田選手の179秒が4位、やたらと小さいヒコーキを投げていた吉田選手が176秒の5位、この日やや声が低かった池田選手が174秒の6位とここまでは小差です。以下、大八木選手、稲葉選手、木立選手と続いて150秒超が9人 / 12人は立

派なものです。その他ではコワレタ星野選手が108秒、田中選手は長年の疲れが取れず調整のみ。さて優勝の方は、気負った平尾は先行したものの今一つ決定打がなく、後半ズルズルと崩れて198秒で、アア・フライオフとなってしまった、アカン。そして菅野選手とのフライオフ、自信があったので菅野選手との同時発航と決めて勝負に出た。しかし、高度では菅野選手の勝ち、しかも滑空でも41秒対40秒でやれられてしまった。このままでは老人は死ぬで……。

6月HLG記録 6月15日グリーンパーク 晴 23度 微風 40秒MAX 5/5投

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F 1	F 2	総計
1	菅野俊行	15	16	24	31	40	40	25	40	40	38	198	41		239
2	平尾寿康	39	16	40	38	40	27	21	39	29	40	198	40		238
3	井村真三	25	28	37	29	33	24	32	40	40	40	190			190
4	三田祐一	35	29	26	01	13	40	40	23	19	20	179			179
5	吉田利徳	18	25	25	08	36	40	30	19	33	37	176			176
6	池田 昇	19	22	36	30	40	32	09	29	36	25	174			174
7	大八木重信	27	18	34	19	04	39	38	21	26	29	167			167
8	稲葉 元	26	15	04	20	26	13	23	36	40	37	165			165
9	木立猛彦	26	19	35	15	40	11	25	16	26	35	162			162
10	平林久之助	32	22	17	26	15	37	17	19	06	25	142			142
11	星野 聡	27	15	14	01	15	19	25	22	07	15	108			108
12	田中 晋	35	12	15	19	05						86			86

6月PLG記録会報告

河田・(平尾)……

梅雨の合間の好天にめぐまれましたが、デサマを付けていないPLGにとっては狭い飛行場でサーマルに乗ると場外となり、1人平均して1.5機回収できなかつたようです。倉田機だけはデサを付けていますが、40秒をクリアするにはサーマル頼みです。PLGは数機作れば作る程、高性能モデルが出来ることを信じて、機体をロスしても5MAXに挑戦するのがランチャーズのPLG魂でしょう。

さて、参加9人中8位が178秒(平均35秒)以上でレベルの高い内容です。3人F・Oとなり天井なしの一発勝負で視界没となった光が丘の原さんの堂々たる初優勝でした。(河田)

今回レポートで初めて「河田節」が出てきてイイですね。この日は風向がアチコチと変わって、発航地点もウロウロで、なんとか機体損失を減らそうとの努力も、むなしい感じでした。しかし、しかし、勝つ為には高性能デサ機か、消耗を覚悟してガンガン打ち上げる「度胸」が試されます。1、2機はデサ付き競技機を作らねば。デサを付けると上昇抵抗は増えるし機体も重くなる。当然ながらそれなりの工夫が必要です。そして初めて、公園で安心して勝負が出来てこそ、勝つ事が出来るのです。

6月PLG記録 6月15日 グリーンパーク 晴 23度 微風 40秒MAX 5/5投

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	10	合計	F1	F2	総計
1	原 国光	07	38	06	40	40	21	24	40	40	40	200	120		320
2	河田 健	05	40	40	40	17	40	14	37	33	40	200	42		242
3	工藤陽久	29	26	37	40	40	40	40	25	40		200	31		231
4	斉藤義幸	40	40	11	35	14	34	07	22	40	40	195			195
5	斉藤竹彦	40	40	30	40	30	25	34	23	39	21	193			193
5	梅沢久男	40	30	25	26	31	15	37	36	40	40	193			193
7	嘉部 保	30	05	40	22	16	40	23	33	40	15	183			183
8	倉田泰蔵	12	22	35	05	40	40	26	37	06	05	178			178
9	吉岡靖夫	14	21	35	25	19	28	20	27	30	16	145			145

2008年7記録会の結果(HLG - B / CLG)

7月HLG記録会報告

平尾……

前日の19日突然としての梅雨明けで、記録会の20日は猛暑です。この日は相沢会長の車に乗せてもらい千葉を6時スタート、いつもより1時間程早く現地到着。張り切り会長は元気なのだ。

7時過ぎにグリーンパークについたが、選手はまだ来ていなくてカランカラン。おかげでゆっくりと朝飯を喰らってポチポチと練習。但し、この時間野原のまん中は「犬」の時間のようで、犬連ればかり。

9時前後になってようやく選手がそろって競技開始。暑いけど風もなくイイ環境でした。但し、ヒコーキの調子が今一で環境評価は30点です。元気な人多数でモリモリと投げてましたが、やはりHLGは力がないと面白くない。かけ声と共に一直線に上昇するHLGは実に爽快(相沢会長・そうかい)。

でもヨタヨタと滅びよくお年寄りドウスルノヨ……。爽快、そうかい。

競技の方はみなさん結構慎重で、私は吉田さんについて2番目に完了してしまいアキマヘン。

成績の方は、この日は本命の天然記念物・イムラ選手、稲葉選手、天敵・菅野選手が残ったのフライオフとなった。それに続いたのが肩のイイ木口、池田、星野の各選手、その後が170秒台に6人が集中した。この日私は難しいサーマルと見たが、勝つ人は違ったようでスイスイとマックス出してる。

この日は前半で勝負あったようで、乗ってしまえば後半も関係なしの好記録の日か。さて、フライオフ、5分間の1/2投、60秒勝負だったが、みなさん投げはソコソコだったが、飛んでいく方向で「ノルノル」に分かれた。この公園は難しい。しかし、井村選手、競技中はやや背面気味に返っていたのが、フライオフでは綺麗に返って優勝、稲葉、菅野の両選手は高度は大差なく、微妙な飛びの方向で2、3位に分かれた。見ていると5分間勝負は、1投目に注力すると2投目考える暇なく発航となって、早く勝負が付く、これでイイのかな。

7月HLG記録 7月20日グリーンパーク 晴 30度 風1~2m 40秒MAX 5/5投

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F 1	F 2	総計
1	井村真三	40	40	40	38	31	33	34	40	40		200	53/34		253
2	稲葉 元	19	40	05	40	40	35	21	40	29	40	200	35/10		235
3	菅野俊行	40	33	40	30	40	40	27	40			200	32/29		232
4	木口雅之	35	40	37	38	40	37	24	36	38	40	196			196
5	池田 昇	30	40	33	32	40	40	29	40	26	28	193			193
6	星野 聡	29	23	40	21	22	40	33	34	40	24	187			187
7	大島 廣	38	40	19	20	16	40	40	06			178			178
8	吉田利徳	32	17	40	18	25	22	20	38	21	40	175			175
9	相沢泰男	20	40	25	25	17	40	40	26	27	23	173			173
9	平尾寿康	27	18	24	28	35	25	17	30	40	40	173			173
9	三田祐一	40	28	22	20	20	20	36	40	26	31	173			173
12	今関健一	31	40	18	21	29	25	35	25	37	25	172			172
13	大八木重信	27	28	25	34	36	26	26	31	19	26	157			157
14	田中 晋	40	07	30	07	22	12	25	08	19	12	136			036
15	川口幸男	17	04	22	18	40	21	15	20	15	13	121			121

紙

紙

紙

紙

7月PLG記録会報告

河田、平尾……

梅雨明けの炎天下で、おじさん達はPLGを追いかけました。3人F/Oとなり、第1F/Oは60秒MAXではサーマルを捕らえて全員パス。その後気まぐれ気流が現れて、第2F/O、90秒MAXで決着しました。会報5~6月号で平尾さんが指摘、提案されている公園用のモデルを開発しなければ5MAXを出してもF/Oで勝つ(サーマルを捕らえれば別ですが)のはむづかしいと思います。(河田)

高齢者殺しの暑い夏、それでも死ぬ気でランチャーズは参加します。推定でも70才以上が3名はいらっしゃるので、次からはランチャーズ医療班を準備します？さて、2、3気が付いた事を……。

「まちだあほうどり」を飛ばしている人がいて、これはイイ事なのですが、せいぜい頑張っても25秒しか飛ばないと言うのは、石井英夫氏の言うほどは飛ばないのがホントウ？ 勝山さん佐藤さんの無尾翼機より飛ばないのは、これはその人の技術の勝利ではないかと。この程度の事で石井英夫氏はケッテ怒らないと思いますが……。次回はもう少し調整を……。

今回もデサなしPLGが多く、マックス＝視界没の確率は高くグリーンパークは消耗戦です。手投げの方では40秒だけ飛ばそうと手加減して投げていましたが、それでも視界没ありです。機体回収も勝負の内で、抵抗が少なくて簡便なデサ、例えば40秒過ぎると、突然発狂する機体の開発が望まれます。「40秒で発狂する心」を紙に塗って、翼の下にピタッと貼り付けるといいのかな。こんな事書いても、私はヘンリー・ジェームスやレイ・ブラッドベリはスキくないですが……。

7月PLG記録 7月20日 グリーンパーク 晴 30度 風1～2m風 40秒MAX 5/5投

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	10	合計	F1	F2	総計
1	河田 健	40	40	40	40	40						200	32/60	67/32	327
2	工藤陽久	40	40	40	38	40	40					200	60/	24/52	312
3	三辺雄司	34	40	40	40	40	27	31	40			200	60/	47/27	307
4	佐藤幸男	19	10	40	17	40	15	40	24	18	33	177			177
5	嘉部 保	33	35	26	25	24	22	27	40	40	16	175			175
6	勝山 彊	27	30	40	16	06	17	16	09	17	16	131			131
7	吉岡靖夫	24	19	25	14	19	22	18				109			109

2008年新潟ランチャーズ・夏期合宿・記

平尾……

昨年は中止となったが、今夏は新潟ランチャーズが主催して、8月2、3日新潟県阿賀野市のテクノガーデン(売れない工業団地)で合宿がおこなわれた。今年の記録的な暑さと、且つ、FF屋の高齢化もあって参加者は13名であったが、地元の参加者が多く、実に雰囲気の良い集まりであった。

さて、今年も相沢会長と2人で軽自動車・ムーブで出かけた。なぜ軽自動車？理由は簡単である。高速度料金が8掛けになのと燃費がイイからである。ムーブは無段変速ギヤを搭載していて変速時のカクンが全くなく、ヒューンとストレスなく加速する。また120kmになってもボディが全くぶれないので、うかうしてると140kmまでしかないメーターを振り切る恐れがある。相沢会長の無謀運転のせいで帰りは15km/1しか走らなかった。おかげで家には早く着いたが……。

話題を戻して、突然日本海側に出来たFFの泥沼のまわりに、コワイもの知らずの新潟人がムラがっている。そのかき入れ時が合宿で、今まさに「新潟ランチャーズ」は旬。

ランチャーズ合宿もほぼ20年続いているが、FF環境も始めた頃と様変わりし、存在意義を考え直す時期にきている。しかし、近ごろは真夏にFFが飛ばせる場所が皆無にちかいので、草っ原の阿賀野テクノガーデンは貴重な場所である。悩めるFFが生き残るには様々な工夫が必要であり、今回の合宿は地元の参加者が多く、FF屋の開発のみならず他種目の模型飛行機屋さんとの交流の輪を広げるすばらしい機会となった。

今回集まった人々の飛ばすヒコーキは、ゴムではピーナツ、ウォールナツ、その他のスケールと競技機、電気プレーン、エンジンではスケール、競技機、Uコン、FFヘリ、ラジコン各種、ロケットィー、HLGと実に多彩で、話もUコンコンバットの「サムライ」とか、スタントの飛燕、プリンス等古い話が出る(わかんねーだろーな)。かといって思い出話に終始したわけではない。だが、黒いゴムで飛ぶ「旭号」、「東京号」など、イヤ古いね……。

昼間の野原では、何かのFFをやるうと新人古人混ざってうろろして、結構忙しかった。やはり地

方に行く情報が不足しているようで、このことは正にFF屋の努力が足りない。であるから新潟大会で接触してきた人々には、相手がウンザリして「イヤ」と言うほど、ガンガンと資料を送り付けよう。

それが滅びよく我々FF屋が生き残れる唯一の道だと思し、新潟にFFが定着するきっかけとなるう。これらの人の中からF1A、Bの犠牲者が出そうな雰囲気があり、この気が消えないように、我々FF屋は頑張らないといけない。い。

* FF電動プレーンの実技

今春あたりからUSA規格のFF電動プレーンキットが日本にも入ってきて、現在ではそれらの完成機が相当数あるはず。今回の合宿でも4機ほど飛ばしているのを見た。大きさはスパン胴長とも90センチぐらいで、重量はおおよそ150g、ギヤ付きブラッシュモーターは18g、日本ではこれに手頃なニッカド電池がないようである。規格では4.8ボルトでモーターを回すようであるが、これではパワー不足でヨタヨタ。この日のテストでは7.2ボルトで回すと綺麗な緩上昇をしていた。モーターランは20秒で上昇高度は50メートル程度。1分マックスではややオーバーな性能であるが、2分マックスではかったるい性能のようであった。ブラッシュレスモーター(1800円程度)を付けると7~80メートルの上昇高度で、これだと2分マックス競技が適当のようであった。USAと日本ではモーターや電池の環境が相当に異なるので、日本独自の規格が必要のように感じた。

* 新潟のHLG

新潟勢HLGの実力はAクラスである。特に笠井、長井の両選手は本業そっちのけでマサニ過激である。ヒコーキの出来も良く(本業は?)、抵抗が少ないらしく上昇音も小さく目測高度30メートルと素晴らしい。このままではとても大宮田んぼには迎えられない。他方、新人の熱狂橋本親子、親父は大柄、子の方は小学校高学年。非常に熱心でHLGとUHLGをガンガン投げていた。投げ方を多少は修正したが、ミルミル巧くなって、2人ともこの日でランチャー認定1級となった。機体はランチャーズのホームページの会報を参考に、重くよく狂うAカットバルサを使用して作ったが、製作技術は素晴らしく、空飛ぶアメ車に乗って今秋大宮田んぼ登場予定である。皆さん、2度と足腰が立たないように、大いに可愛がってヤッテ下さい。

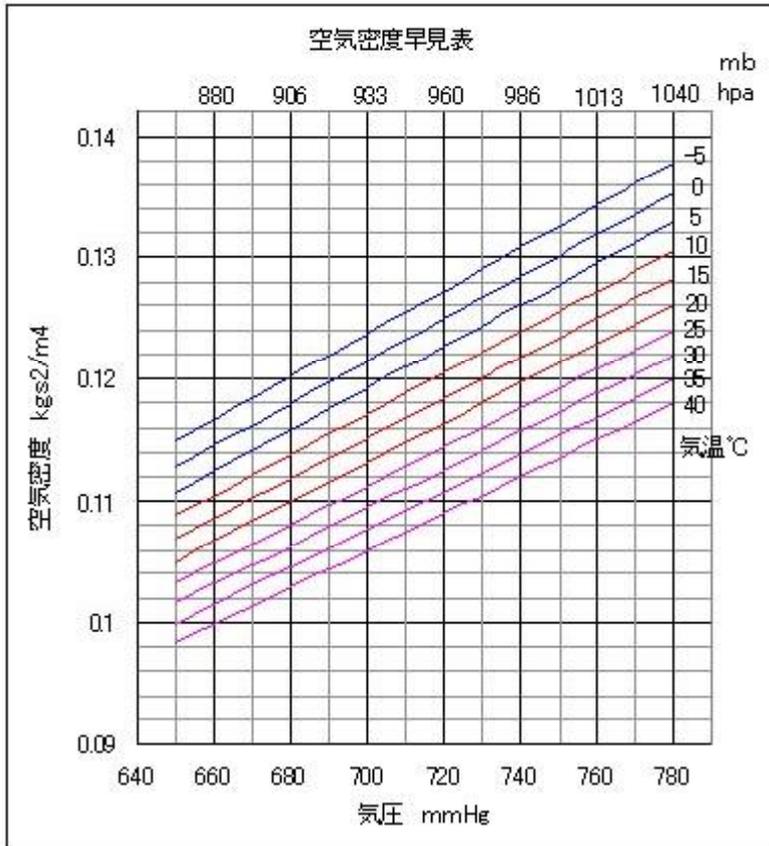
お知らせ

2008年松茸大会(中部秋季競技会)案内(予定)

- 開催年月日 : 2008年9月28日(日) 時刻: AM 08 時 30 分から
- 主催 : 中部フリーフライトクラブ
- 場所 : 三重県鈴鹿市池田町タンボ
- 参加費 : 1種目2000円、2種目参加の場合は+1000円、ただし中学生以下は無料。参加費は競技当日に各種目の実行委員にお渡し願います。
- 種目 : HLG, F1G, F1H, F1J, G, R, E, 小型混合級
エンジン機(E級・F1J) 2分max 5ラウンド
グライダー(G級・F1H) "
ゴム動力機(R級・F1G) "
ハンドランチグライダー1分max5R(各ラウンド2回のうち上位タイム)
小型混合級1分max 3ラウンド
- その他 競技中の事故等については、参加選手各自で対応する。天候等の理由によりラウンド数を変更することがある。作業中の農家の方々には、こちらから積極的に挨拶してください。デサマには必ず火縄落下防止装置をつけてください。小型混合級はスパン30インチ以下、ゴム重量10g以下の機体なら何でもOK。
- 連絡先 中部FF会長吉川広、実行委員E級・F1J吉川強、G級・F1H佐藤宏彦R級・F1G吉田潤、ハンドランチ掛山吉行、小型混合級竹内栄重

滞空性能と空気密度について

石井満……



これは空気密度の早見表です。以前計算式を紹介しましたが現場ですぐに把握出来るようにグラフにまとめました。

気圧 (mmhg、mb、hpa) と気温 が解かれれば空気密度が解かります。湿度の影響は小さいとして省略してあります。

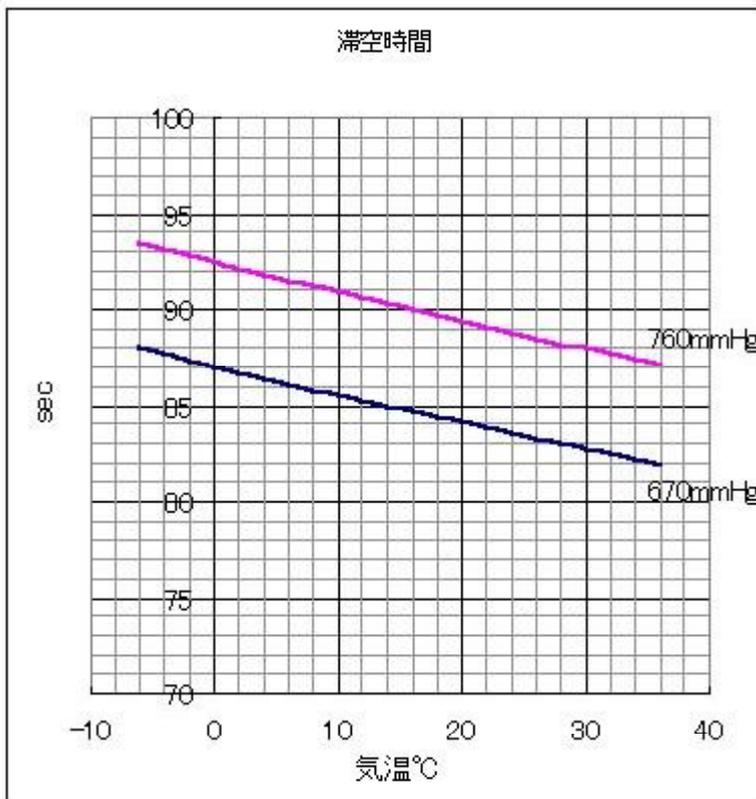
霧や靄の様な空気中に浮遊水滴が散在する場合はこの表は適用できません。標準大気という考え方があります。

航空機では海面上 15 の状態の空気密度を基本として空力設計を行います。この時の空気密度は 0.125kg/m³ で計算されます。

ハンドランチの場合は過去の滞空時間実測より空気密度が大きいほど滞空時間が伸びるデータが得られています。

私の投げ方のように水平もしくはやや上向き発射で揚力を使って上方に偏向、半ループを描くような上昇パターンの場合空気密度が小さくなると揚力も減るので抵抗減のマーヅンを食いつぶして獲得高度はほとんど変わらないという仮説を立てています。獲得高度が変わらないとすれば滞空時間は単純に滑空速度に反比例する形になります。空気密度が小さく滑空が速い場合は沈下率はその分大きくなり滞空時間が小さくなります。次回は色々な気圧、気温の条件で滞空時間を計算させて比較してみましょう。

上記のグラフで空気密度を割り出しましたが今日は滞空時間にどのくらい影響するかを見たいです。左下のグラフは大型の翼端投げカテゴリー 4 の機体を想定した場合の気温と滞空時間の関係を表しています。機体はスパン 1.1 m で 100 g、初速 40 m/s の場合を性能計算プログラムで計算させています。空気密度が変わっても獲得高度は変わらないとして計算します。



気圧は平地の場合として 760mmHg、長野の松本ドーム(標高 1000 m)相当の高地の場合として 670mmHgの2種類の場合とします。

たとえば平地で真冬の 0 の場合滞空時間は 92.5 秒となります。平地で真夏の 35 の場合は 87 秒となりその差は 5.5 秒となります。真夏に 30 の松本ドームで飛ばすと 82.5 秒となり最初に比べて 10 秒も落ちるようです。

概略で押さえるなら 気温の影響は +10 で - 1.5 秒
気圧の影響は - 90mmHgで - 5 秒 (1000 m標高が上がると - 5 秒)
となります。

どうでしょうか実際に飛ばした印象と比較して妥当な値でしょうか?個人的にはもっと空気密度の影響は大きいように感じています。今回の計算の 2 倍ぐらいはタイムが違ってくるように思いますが如何でしょうか。いずれにしろインドアHLGで記録を狙うなら平地で気温の低い時期のなるべく空気密度の大きな条件で飛ばすのが得策であるという事実は間違いないと思います。

コンデジ用外付けファインダーの製作

平尾……

今回はヒコーキとあまり関係のないテーマですが、皆さん飛行場ではケッコウ写真を撮るので参考になればと発表します。まず、コンデジの説明ですが、インターネット上で通用しているコンパクト・デジタルカメラの略語です。古いコンデジはわかりませんが、最近のコンデジは液晶モニターを見ながら写真を撮るのが一般的です。自分の好みから広角レンズ(28mm以上)が付いているルミックス(パナソニック)を買ったのですが、ファインダーが付いていません。なぜ広角レンズにこだわるのか、理由は簡単です。ヒコーキを撮る場合広角レンズですと広い場所が写るので、飛行場の雰囲気が出やすいのです。又、ルミックスにはライカ設計のレンズが付いていて純日本製のレンズと表現や色が微妙に異なるのです。しかし、ファインダーがないカメラはやはり使いにくい。後々よく調べると広角レンズが装備されていませんがキャノンにはファインダー付きコンデジがあります。

なんと言っても飛行場で使う場合、太陽がサンサンとかがやく昼間屋外で使うので、液晶モニターのみでは何とも使いにくい。そこでコンデジに外付けファインダーを付けて、旅行用にも使おうと考え、調べてみたのが以下の報告である。

1. コンデジ用外付けファインダーを売っているか?

メーカー製品が3つありました。1つはシグマ製ビューファインダーVF-11で18,900円。他にリコーの外部ファインダーGV-1は18,480円、及びGV-2は21,730円。これら外付けファインダーは意外と大きい。又、この価格だと廉価なコンデジが買えてしまう。さらにもう1品はケンコー製ビューファインダー7501(焦点35~60mm)、2,800円があった。こちらは手頃な値段であるが情報が古いのか、カタログでは確認が出来なかった。

2. アナログカメラのファインダーを使う

次に考えたのは古いアナログカメラのファインダーの利用である。取り外すのに手間はかかるだろうが使えるはずである。しかし、複雑な機構のレンジファインダーカメラ用や焦点連動のファインダーはダメでしょう。最近のコンデジは全て自動焦点で、外付けファインダーを連動させるのは、ほぼ不可能だからです。使うとすれば小型の固定焦点タイプのファインダーがベストです。そこで、たまたま手元に壊れたオリンパス・ペンDがあったので、これをバラしました。当時(40年程前)のカメラは錫系の合金ダイキャスト製で固く重く実にシッカリと出来ています。まず、カメラの内部を調べてから、極細の金切り鋸を使って、丸1日かかってファインダー部分を切り出しました。そしてそのファインダー部分をヤスリで整形し、一部補修をして黒く塗装しました。使われているレンズはガラス製3枚で実にシッカリと出来ています。無事レンズを痛めずに取り出せましたが、外形はイビツな左右非対称型です。

カメラへの取付はネジで考えたのですが、コンデジを傷つけないので、結局両面テープで付けました。このファインダーは焦点距離50mm用で画角は狭いものの画像はクリアーです。しかし、フ

ファインダーの長さが31mmもあり、これをカメラに付けると、ボディより大幅に前後にはみ出るのが気に入りません。

3. レンズ付きフィルムのファインダーを使う

ファインダーをより小型にしたいと考えて、フジフィルムの「写るんです、スマート」(27枚用)・398円のが使えるのかどうか購入しバラしてみた。日本の技術はスゴイですね。プラスチックモールドの素晴らしい事、たくさんのパーツから出来ていますが、全てダボのハマ込み式で接着剤は全く使っていません。バラす前にまず最初にやる事は、レンズを指でふさぎながらシャッターを押してフィルムを全部巻き戻します。多分このフィルムは後で使えます。次にカメラの底の蓋を強引に開けてフラッシュ用の電池を外してください。電池は単4で電圧1.5ボルトですがコイルと回路で昇圧されているので、ばらす時に回路に触るとショックがあるはず。この電池も使える。次にダボを外しながら丁寧にカバーを外すが、どうにも外れない場合は強引に引っばがしファインダー部分を開けます。そうするとダボの羽目込み式レンズが簡単に外せます。レンズは2枚構成で対物レンズは凹レンズ、接眼レンズが凸レンズです。このファインダーはそれ程ピントが明瞭ではないものの充分実用になります。

但し、このプラスチックレンズは大変やわらかく傷つきやすいので、バラす時はレンズを直に手で掴まずにメガネ用の布等で丁寧に扱ってください。

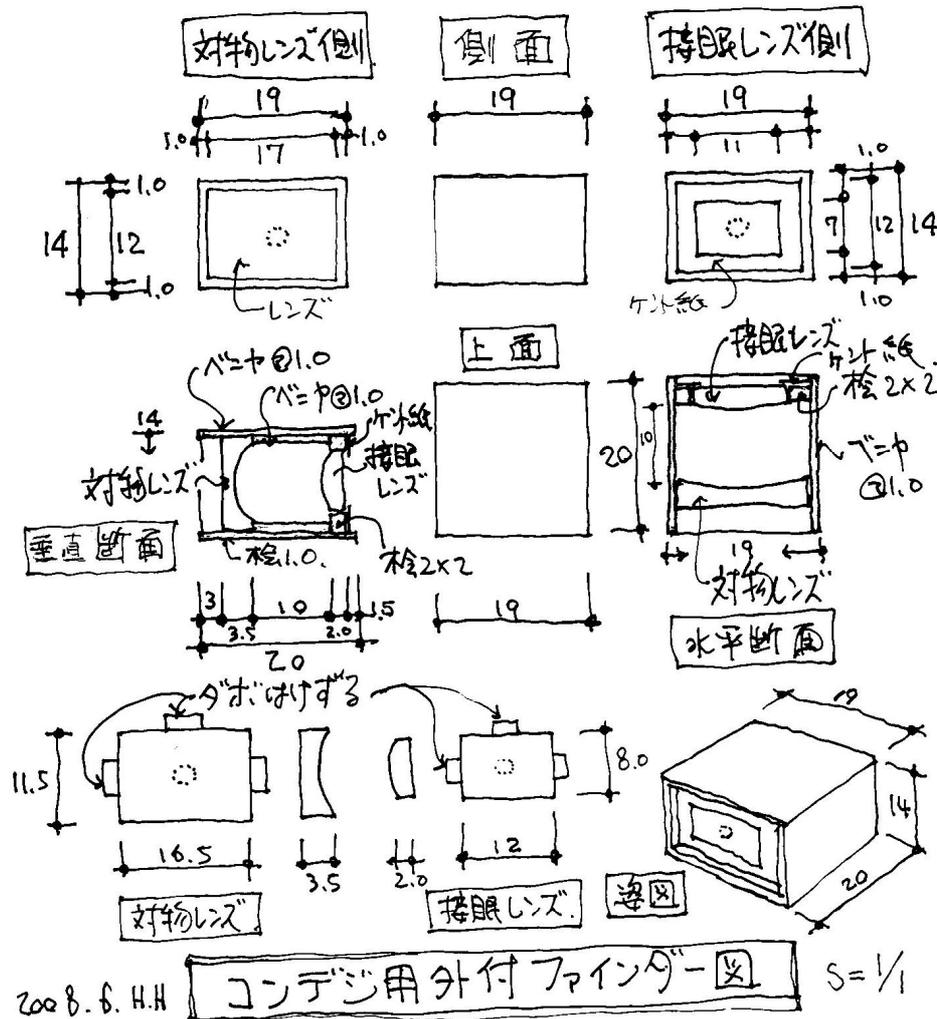
さて、これをどう使うかですが、最初、このカメラのファインダー部分を切り出して、そのまま使おうと考えました。ところがファインダー部品が4つのパーツに別れていて、どうやっても綺麗な形には切り出せません。また閉じる構造になっていないのです。最初は穴の開いた部分をエポキシで埋めようと試みましたが、しかし、エポキシが固まるまでに穴からケース内部に流れ込んで失敗です。

そこでレンズのみを使ってケースは作る事にしました。ケースの大きさは20mm×19mm×14mm

ですが、最初は格好良くアルミ板(0.3mm)で作ろうと考えました。しかし、ペンチだけで直角に曲げるのは至難の業です。アルミを曲げるには道具が必要で、結局諦めました。

そこで、図面のように1mm厚の航空ベニヤを瞬間接着剤で接着してファインダーケースを作る事にしました。しかし、ここまで試行錯誤している内に、最初購入したカメラのレンズは残念ながら傷だらけになってお釈迦になりました。仕方なく2個目を購入し再度挑戦です。原稿書くのもお金がかかるのです。もっとも2台買ったにしても800円弱でファインダーが出来るのですから安いものですが。

さて、どこでレンズを傷つけたかですが、まずはレンズ取り外し時。さらに2枚の



2008.6.4.H.H

コンデジ用外付ファインダー図 S=1/1

レンズにはボディーにはめ込み用のダボが出ていて、そのダボを削っている時にレンズを雑に掴んでいたのが、傷だらけになったのです。特に接眼レンズは小さいので要注意です。レンズのダボを削る時、傷つかないように布等で掴んでゆっくり削り、終わったら即ファイダーケースに入れられるように、あらかじめケースを作っておいてください。また、レンズの外周は少し削りしろがある方がぴったり装着出来るので、少し大きめに削っておきます。

さて、ケースの製作です。図面のように1mmベニヤを上下左右4枚分を切断して、サンドペーパーで丁寧に大きさをそろえます。次に17mm×12mm(対物レンズの大きさ)の板(ジグ)を作り、組み立てる時それをケースのまん中に置いて、各板をセロテープで固定し箱形に仮付けします。次に、ジョイント部4角の前後2ヶ所づつ少量瞬間接着剤を付けます。それが固まったら狂いがない事を確認してからジグを外し、各継ぎ目内側全面に瞬間接着剤を付けます。さらに外周にも瞬間接着剤を付けて乾かし、全体をサンドペーパーで整形します。特に板の小口には瞬間接着剤を塗ってから研磨してください。こうすると塗装吸い込まれず綺麗に仕上がります。次にケースの内部上下にレンズの位置決めをする板(巾17mm×10mm×1mm)を接着します。

それが終わると接眼レンズ側の内側4周に2×2の桧角材を接着します。乾いたら接眼レンズが入る部分の桧をレンズの大きさに合わせてヤスリで削ります。そして接眼レンズを傷つけないように入れてみてOKなら、そのレンズを1度外して傷付かない場所に保管します。次に接眼レンズより少し小さな7mm×11mm角の穴を切り開けたケント紙を接眼レンズケース外側(17mm×12mm)に合わせて切り、接眼部の外側に接着します。このケント紙の役目は、接眼レンズをはめ込んだ時の位置決め用と、外側からみて接眼レンズ取付部の隙間隠しです。ここまで出来たら乱反射ないようにケース内部を黒く塗ります。塗料は100円ショップのマニキュア用エナメルを使います。中が塗り終わったらケースの外部をカメラの色に合わせて塗ります。外側の塗装は、綺麗に見えるように塗装後400#サンドペーパーで平滑にして3回ぐらい塗って、よく乾燥させましょう。

全ての塗装が完了してから、対物レンズを削りながらケースにはめ込みます。入れる時は布で傷つかないようにそっと押さえ込みます。塗装前はケースとレンズの寸法に0.5mmの余裕がありますが、塗装後はキチキチになる筈です。レンズが入りにくい場合は外周をヤスリで少しづつ削って、やや力を入れて入る程度にした下さい。そして軽く押し込むと入る様になったら、1度外して傷が付かないところに保持して下さい。対物レンズは接眼部側から棒等で押し出して下さい。

次は、いよいよレンズの装着です。その前にケースの中のゴミ等を綺麗に取っておく事。そしてケースのレンズ取付部分とレンズの縁にゴム系接着剤を楊子で少量付けて乾かします。私はスコッチのゴム系多用途糊を使いましたが、ゴム系糊を使うと失敗した時に外せるので便利です。接着剤が手に付かない程度に乾いたら、最初に対物レンズ側から接眼レンズを布を挟んだピンセット等でそっと入れます。予定位置に収まったら布を噛ませた箸のような物を使ってレンズをチキンと押し込みます。

その時接眼レンズが正確な位置に入ったかどうかを確認し、位置がOKなら接眼レンズを裏表から布等で磨いて下さい。次に対物レンズを、内側を触らないように前側から丁寧に押し込みます。隙間なくやや堅めに入るのが理想です。ここでゴミが入ると取り出せませんので、ゴミ等入らないように注意しましょう。レンズが収まったら表裏からレンズ位置を確認して、ファイダーを覗いて画像の鮮明度を確認します。最後に外部塗装を確認してハガレ等があれば補修します。これも合格ならファイダーは完成です。

4. ファインダーの取付

以外と難しいのがカメラへのファインダー取り付けである。カメラへの取付には両面テープを使う。

この方法だとカメラも傷つけずに簡単に位置決めができる。両面テープでも位置が決まるまでは軽く付ける事、シッカリ付けてしまうと外すのが結構面倒である。

出来ればカメラを3脚に取り付けて調整する方が楽であるが、なければ手持ちでも可能である。

まず始めは、カメラの焦点を出来るだけ望遠(拡大側)にし、3m位離れたなるべく小さな目標をねらって画像で確認する。そして画像と合わせてファインダー(今回のファインダーにはピントリングがあ

る)の位置を決め軽く接着する。次に丁寧にファインダーで画像位置決めをしてシャッターを押す。



そして写った映像をモニターで確認しながら、ファインダーの左右位置を補正する。何回かテストをして、これがOKとなったら、次に上下関係をチェックする。私のカメラの場合は、ファインダー後部にケント紙を1枚をかませピタリの位置となった。位置が決まったらテスト写真を撮る。そして狙ったところにピントが来ているかと、映像がねらい通りかどうかを確認する。ファインダーのピント位置とカメラのピント位置がそろわないと焦点が合わずにピンぼけとなる。デジタルカメラの有難いところは、テストの為に何回写真を撮っても、即画像が確認できて即消去できる事である。ほぼOKなら実際に写真を撮って、パソコンに取り込んで大きな画面で確認してみよう。

ファインダーを付けたカメラ

それもOKなら、今度は両面テープ部分をシッカリ押さえ込みファインダーの取付は完了である。

5. 外付けファインダーを使う写真の取り方

まず、ズームレンズを動かして撮りたい画像(焦点位置、画面の大きさ等)をモニターで決めてから、ファインダーで被写体をねらってシャッターを半押しし、合焦点音がしたらシャッターを切る。このタイミングはちょっとしたコツが必要である。1眼レフではないので、このファインダーでは合焦点のぐわい等カメラの動きがわからないので時間が長く感じられるが、これは慣れるしかない。

今回完成したばかりのファインダー付きカメラを、6月記録会で使ってみたがファインダーがある方が断然撮りやすい。結論として充分実用になると断言する。出来上がった写真は、さらにパソコンで画像補整(画像サイズ、色彩、明度等)をすれば見事な写真となる。

さて、このファインダーをカメラに取り付けて「めずらしいカメラでしょ」と見せて回ったが、キョトンした反応が多く、不細工な物が付いているという認識はなくて、市販品のファインダー付きコンデジと認識してくれたようである。しかし、ファインダーを写真で撮ってみると、細かいところがまる見えで、もう少し丁寧に作れば良かったと反省しています。特に前面の板の小口部分は、キチンと磨いてもっと丁寧に塗装すべきでした。ま・しかし、アツと言う間に出来たにしては、上々と考える事にしました。お許しアレ。もっと巧い作り方があれば教えてください。(写真参照)。

子どもルーム・模型飛行機教室を考える

平尾……

* 前説

幕張海浜公園で知り合い、今回はじめて取り組んだのが、いわゆる「学童保育」グループと組んでの模型飛行機教室である。「学童保育」とはあまり聞かない言葉だと思うので説明する。

基本事項として、保育園は厚生省所管であり、幼稚園は文部省所管であるので、やっている事は似ているが考えは相当に異なる。保育園は福祉の1つで、幼稚園は教育である。であるから学童保育は福祉の一環で、学校を対称とする子ども飛行機教室とは別物なのを、まずご理解頂きたい。

「学童保育」とは千葉市では「放課後児童健全育成事業」の1つで、昼間家庭に保護者のいない、原則として小学校1年生から3年生の児童を対象に、授業が終わった後の遊び及び生活の場を提供し、指導員の活動支援のもと、児童の健全育成を図ると定義されている。平たく言えば、両親が共稼ぎの就学児童を学校が終わってから夕方まで預かる施設である。子どもルーム参加希望者は、親が各地方自治体の窓口に申し込み、承認されると規定に応じた費用を負担するシステムである。

建物はおおむね公設だが、運営は地方自治体所属の社会福祉協議会等に委託され、限られた職員で多数の学童を預かっているケースがほとんどである。また、法的には特別な資格の保持は必要ないが、指導員になるには各施設の裁量により保育士・小学校教諭・幼稚園教諭などの資格保持や児童指導員・児童厚生員(児童の遊びを指導する者)に関する資格取得・研修受講を必要とする

場合が多い。財政難を理由に嘱託やパートなどの非正規雇用も多く、指導員の身分は不安定である。このような現状から「子どもルーム」は福祉ボランティアを待ち望んでいる。

ランチーズでは過去25年にわたって、子ども模型飛行機教室を実施してきた。しかし、メンバーの高齢化や少子化の急速な進行等で、独自の子ども模型飛行機教室開催は1昨年より休止状態にある。企画から場所の設定、参加者募集までやるには、結構負担が大きいのだ。FF屋が模型飛行機の普及を真剣に考えるならば、福祉の一環である「子どもルーム」と組んではどうか。そうすれば場所と参加者はすでに確定済みなので、ずいぶんと楽になり、子ども模型飛行機教室の実施は継続可能となる。しかし、この取り組みの場合、教育の一環ではなく福祉の一環なので、子供達の時間は充分にある。しかし、参加者からの費用負担はほぼ出来ないと考えて、我々持ちとする必要がある。その事も考慮した上で、今回初めて「子どもルーム」と組んでの模型飛行機教室を実施した。

* 実施報告

今回初めての子どもルーム・模型飛行機教室であるが、参加したのは小学校1年生から3年生の児童約40名と、我々幕張海浜公園を活動拠点としているヒコーキ仲間5名である。但し、5名のみでの指導では約40名の子供達に飛行機を教えるのは困難なので、まず1回目は子供ルームの先生方4名にご協力を頂いて作り方・飛ばし方を習ってもらった。

今回作って飛ばしたのは手元にあった約200機分の倉田印刷特製の「折り紙パチンコ飛行機・くらた号」である。やや厚めのモゾウ紙に折り方が印刷してあり、それに習って折りまげてホッチキスで止めると完成する。それを輪ゴムで飛ばなのであるが、これが意外に良く飛ぶのである。まるで石ころの様に飛んでも子供達は大はしゃぎしてくれた。今回の参加児童40名の内、我々よりもはるかに良く飛ばす子もいて、その可能性のすごさに驚かされた。我々年寄りも、ひさびさに嬉しい刺激を貰った1日であった。又、子どもルームで頑張っている先生方にも心からの声援を送りたい。ホームページに写真を載せたが、プライバシー保護の関係から残念ながら公開できたのは遠景のみである。

反省点として、厚い紙では低学年ではキチンと折れない子もいたり、ホッチキスの針が短くて先が尖ったままで指を傷つけるケースがあった。そこで強度的にはやや物足りないものの薄い紙のに変更した。但し、飛ばしている内に紙が破れてくる事もあり材質の選択が難しい。又、我々の考えと上下が逆に飛行してやたらと飛ぶ機体があり、この点については後日調べてみたいと思っている。大人の考える事は限定的であるが、子どもは自由闊達にものを考え実行しスゴイ。

ここで、今回の子どもルームを手伝ってくれて海浜幕張公園で飛ばす人々の紹介をしたい。年令は65~80才、正確な住所は知らないが住まいはおおよそ海浜幕張駅周辺、自転車て公園に飛ばしに来ている、せいぜい10名程度のグループである。非常にモラルが高く、飛行機のみならず、様々な物事に理解を示す。飛ばしに来るのは主としてウィークデーで土日の午後は大勢の子供達が公園にいる為にお休みである。今回の子どもルームに参加して「楽しかった」との感想で、今後ともぜひ続けようとの意見が多くをしめた。ずっと大事にして行きたい仲間である。

* 今後の課題・積極的普及とは

模型飛行機は急速に高齢化しつつあり、このままではやがて自然消滅する。連盟でもここ5年程模型飛行機の普及に取り組んでいるが、現状のママでは既に手遅れではないか思う。と言うのはランチーズでは子ども模型飛行機教室を長年(約30年)続けてきたが、その成果は微々(5名/1500名)たるものだ。結局途中から別方式(大人対象のHLG・PLG)の普及を図ったが、第1期収穫期はとくに終わり、例えばPLGの現在のメンバーの場合、当時の若手は現在中心人物となっているが、熟年で始めた人はすでにリタイヤしたり、亡くなった人も多い。今後は連盟のみならず各クラブ単位でもFFの普及に取り組むべきではなかろうか。しかしながら、30年近く続けた経験から言えば、これまでの子ども教室のやり方では「ダメ」と言って過言ではない。ではどうするのか。

今回の「子どもルーム」との取り組みが、大変ヒントになった。我々模型飛行機も高齢化しているので、今後は若手の世話になるばかりだが、それでイイのか。自分たちで楽しんでいるだけでは、我々は消えていく。しかも滅び去りし「つわもの」では寂しいではないか。

そこで、まだ元気な内に多少なりとも社会的貢献を心がけるべきではないのか。模型飛行機教室等労働奉仕は当然として、今後は我々で費用を出し合っても模型飛行機教室を続けていくべきではないのか。出来れば各クラブ単位で、部費の中から模型飛行機教室の支出を予算化する事を提案したい。我々が費用負担をするのであれば「子どもルーム」と取り組めるのである。

この提案のどこがこれまでと違うか。1つは参加者が確定している事と時間が限られていない事(但し、この事は体力との勝負になる)がある。費用負担するをする分だけこれまでより積極的である事、さらに自分たちが費用まで出してやっていると言う責任感、最後はこれまでよりは参加者が相当数増加する事は確実であり、宣伝効果もあるが責任も重い。一度始めたら簡単には止められない。この事は決して安易に考えてはいけない。実行するには、それなりの覚悟が必要である。

例えば、生半可に「学童保育」と入り組むと、希望数が多くなった場合、対応できずに深手を負う事もある。千葉市の例で言えば「子どもルーム」は103ヶ所あり、おおよそ6000人の児童が所属している。どこの子どもルームでも時間をどう過ごすか日夜悩んでいるので、模型飛行機教室の時間はふんだんにある。だからといって、それらの要請を全て取り入れていたら、我々がつぶれてしまう。

そこでまず我々のアイデンティティーを確立しておく必要がある。活動はあくまでも「模型飛行機」に関するもののみとする。次に各グループの能力(規模、技能等)を見極めて、それに応じた活動に留める事。次に年間開催数の限定や、対称人数もしぼる必要がある等々考えると「コワイ」のも事実であるが、それでは模型飛行機は滅びる。ご意見を待つ。

展開スパン90センチのUHLG

平尾……

改良を重ねてきた競技用UHLGも1段落して、それぞれのデザインで定着してきました。生産台数は不明の石井満氏と吉敷氏、これを追いかけて多分追い越してしまった生産数120機超の春山氏、100機超の野中氏、幸いな事に多分そろそろ行き詰まっている伊東氏等、それぞれ機体は似ているようでみんな違っています。でどれが標準機かと言うと「さて、どれでしょう」。又、今度の合宿でチラッと見ましたが最近急迫中の新潟勢、そこはかたなく「良さそう」です。しかし、いずれも残念な事に企業秘密で最新型の機体図面が手に入りません。

そこでやむなく、チラッと動向を書いてごまかして、いつもの如く私の図面となりました。おおよその諸元は、最大翼弦12cm、翼厚5.8%、展開スパン90cm、スパンは83.5cm、上反角は16%、重心位置55%、翼面荷重11g/dm²と多分標準的です。さて、諸氏はどの辺りを工夫しているのか？

1. 主翼

工夫の大部分は主翼です。私は翼弦を大きくしR数を稼ぎたい方ですが、これは少数派です。

多くの選手は翼重量を減らす為に翼弦を最大10cm程度と狭くして、翼端も絞って面積を小さくし、翼厚は5~6%にする。すると強度が心配なのでバルサの比重を0.12程度まで上げる。その結果としてハイアスペクトレシオ機(10~12)になるのです。これで上昇抵抗減少と滑空性能向上の2匹のウサギを狙うのですが、さてどうなのでしょう。

石井満氏のレポートによるればUHLG上昇時のR数は15~20万になるので、主翼下面削ぎ上げは必須です。ここまでR数が違ってくると上昇と滑空ではまるで違う空間を飛んでいるようなもの。

機体設計も別々に工夫する必要がある。翼要素である薄翼、フラップ翼、下面の削ぎ上げ、アスペクトレシオ等が、上昇抵抗と滑空性能で別々の働きをする可能性があるわけで、そこを巧く使い分けて+数mの高度と、-数cmの沈下率を稼ぎ出すノウハウあれば、その人のカチですね。

2. 胴体と尾翼

テールボリュームは極端にしぼって、且つ、V型水平尾翼として垂直尾翼面積を減らし小型化しています。且つ、主翼上反角を16~20%辺りまで増やした結果、滑空時の螺旋スパイラルはほぼ解消されたようです。但し、上昇調整のために垂直尾翼はどうしても必要、と言うのが一般的です。また、デサは持ち運びの点も考えると、主翼ポップアップ式で決定です。

胴体の作り方は、やや太めのカーボンパイプ(5~6)をノーズからテールまで1本物で通す方が折れにくく且つ軽くできます。又、胴体断面が小さい分上昇抵抗で有利との理解です。しかし、春山氏はデザインにこだわって頭部は比較的ずんぐりした楕円形にこだわっています。

2. 翼型の改良

私は翼下面の60%位置にレーザーソーで切れ目を入れて、そこを折り曲げて1mm~1.5mmのフラップ翼としています。この翼型は20年ほど前から使っているもので、上昇高度もあまり落ちず、見てもわるほど滑空スピードが遅くなります。私はこれで満足しているのですが、石井満氏の「翼下面削ぎ上げ」に触発されて、今回翼型で多少の改良を試みてみました。これまでは0.5mm程度だった削ぎ上げを、最新作は1.5mm程度に増やしてみました。以前、完成機の翼上面に切り込みを入れて削ぎ上げを増やしたテスト機を作ったので、この2機をテストしてみました。期待していた高度のプラスや滑空の良化がどうも判然としません。この点は石井満氏のHLGの揚抗比グラフ(まだ一般公開出来ない)から取得高度と滑空のバランスを見ても、今1つ納得できていないのです。実競技では、作るのが難しいフラップ翼とHLG翼の差はほとんど無いのではないかと考えています。

さて、話題を変えて…。各種高度測定器で測って上昇高度は、25~35mと言われていますが、このあたり、まだ納得していない選手が多く、もう少し時間が必要のようです。その原因は、目測とデータが感覚的に合わないからです。下から見ていると30m上空での高度の差が実感と違うのが原因だと思います。目測では35mと30mの差が数m程度にしか見えないのですから。図面別添

雑談天国

羅城

平尾……

さて今回は平城京大会にかこ付けての雑談です。毎年お世話になってる平城宮跡ですが、現在は大極殿が建設中、朱雀門が再現されています。門があると言う事は、昔はここからしか入れなかったと言う事です。中国や百済の都市は城壁に囲まれていて(羅城)、数ヶ所に城門(羅城門)が設けられていました。朱雀門は羅城門の1つですから、昔は当然ながらこれに連なって羅城(連続城壁)がありました。平城宮の外側に平城京があって、各方向(東西南北)4ヶ所には羅城門がありました。そしてそれぞれの門ごとに名前が付けられ、その1つが朱雀門(但し、これは平城宮の羅城門)なのです。朱雀とは中国の伝説上の四神獣の1つで、形は鳳凰状で色は朱、方位は南を現します。ですから、東西南北の門の名前はおのずから決まってきました。このような日本の古代都市の原型は中国にあると言われていて、平城京、平安京は洛陽の模倣だと言われていました。しかし、近年の研究では少し違っているようです。当然ながら都市計画は国防上の大秘密なので図面等手に入るわけもなく、せいぜい自分たちで見聞する程度だったはず。その乏しい中国の情報をもとに、比較的近くにあった百済の都市を参考に、日本的な様々な工夫をこらして平城京が造られたと言われていました。

話をもどしますと、羅城は西欧や中国の都市を外敵から守るための重要な施設でした。日本でも弥生時代には集落の周りを頑丈な柵で囲んであって、所々に見張り台があり城門もあってしっかりと防備をしていました。これがないと外部から攻められた時、その村、町が皆殺しにあうからです。

しかし、平安時代以降は、城壁はありましたが都市や町を囲む羅城はなぜありません。平城京には立派な羅城門があったので門の両側にはある程度の羅城(柵)は作りました。しかし、その他の部分は何もなくスポンポンだったので、どこからでも自由に入れたのです。平城京のみならず、平安京を含む「京」にはいずれも羅城はなかったのです。何ともいい加減で日本的ですよ。又、羅城と言っても日本においては木製の貧弱な物で、万里の長城みたいな石垣で築かれた羅城は遂に造られませんでした。その理由は簡単です。日本では昔から城攻めはあっても、都市攻撃等はなかったからです。都市国家・堺のような例外はありましたが、ここも城壁はなく町を囲む堀が巡らされていただけです。これをどう考えればいいのか。オオ・なんと素晴らしい平和国、ニッポンよ。

西欧の都市計画では、まず地形に合わせて町の周りに羅城を築き、これによって都市の大きさが

決ります。そして、その中を格子状や放射状に町を計画したのです。しかし、都市の大きさが決まっているので、都市が膨張すると人々は羅城外にも住むようになり、それらの人は戦争があるたびに、家も畑も捨てて羅城内に逃げ込んだのです。その度に略奪を繰り返され辛い思いをしたのです。

当時は当てずっぽうに都市を造っていましたが、「永遠の都市」が意識され始めると、真剣に都市計画を考えるようになりました。さりながら正しい都市計画とは、どうあればいいのでしょうか。

と言うのは2000年も続いている都市もあるからです。例えば紀元前成立のローマが計画された当時、重要な交通機関は馬や馬車でした。しかし、その計画のママ現在は自動車走っているのですから、不便なのは当たり前です。しかし、これが都市計画の不備と言えるのでしょうか。

都市計画者は何年さきを想定して設計すれば「正しい」のでしょうか。そうです。似ているようで全く違うのが建築家と都市計画家です。都市計画とは未来発達する科学を予見し、それにとまなう社会変革に適応した計画を提示すべきなのです。ですから都市計画事務所の中には汎科学研究所を併設し、多くの科学者に多方面の研究をさせているところもあるのです。しかし、その努力は当然だとしても、はたして人間に2000年も続く都市を計画出来るのでしょうか。

その煩悶はさておき、欧州では立ち後れている石作りの都市が残っているおかげで、街と郊外が確然とわかれている景色は実に美しい(ウィーンは全ての羅城を破壊し環状道路とした)。

さて、日本ではどうだったのか。徳川幕府が出来た当時、考えられた都市計画は世界にも全く例のないものでした。徳川家康が考えた江戸には、羅城がなく城を中心として「の」の字の渦巻き状に町が計画されました。この計画では家屋そのものが羅城の役目を果すのです。その為に城への直線道路がなく、一気に城を攻める事が出来ませんでした(慎重な家康らしい!)。そのことから江戸には都市の仕切である羅城がないので、世界にも例がない膨張可能な都市となったのです。そして江戸は時代と共に膨張し1800年当時、世界最大の都市(人口百万人)になったのです。いかにも日本人らしいルーズな優れた都市計画ではありませんか。

その計画性は今も生きていて、現在でも東京周辺は時計回りに発展(横浜 多摩 埼玉 千葉と周りながら)発展しているのです。また、その連続性の為に、中央線や東海道線に乗って景色を見ると、延々と建物が続いて計画性など全く感じられず、実にシマリがない。明治の始めの人口は四千万人ですから、そこら中がヒコーキを飛ばせる野原でした。しかし、現在の日本の人口は当時の3倍、1億二千万人もいるのですから、ヒコーキが飛ばせる野原など夢の又夢です。

都市と郊外が整然と分けられている欧州を人工的と言うとすれば、ズルズルの日本ははたして自然的なのか、イヤ、違うのか。唯一知性を持つ人間のみが、なせ自然を破壊するのか。

【*】メンバー情報

誰も心配していない人からお手紙を頂きましたが、せっかくですから載付けました。彼の言う事故の件調べてみましたが、時間が経っているのと重大事故ではなかったせいが見つかりませんでした。

しかし、重大事故でなかったのも、わずか数ヶ月で酒が飲めるわけで、それでグタグタ言えるのは幸せなのかも知れません。元気でヤレ!!! とくめいきぼうですが癖のある文章でバレバレ

* 昨年、ちょっとした事故により4ヶ月近く入院してしまい、今ハビリ中でゴザイマス。やっと3月ぐらいから仕事に出ています。本調子ではなく、マイツイいます。なにをやらした? 実は下水道工事で地下4.5mの穴の中で作業中、生き埋めにあい、腰骨と左足の骨折、背骨の圧迫などなど(なんかニュースに出たらしいがワカリマセン)、かげさまで2ヶ月の禁煙、3ヶ月の禁酒(これがイチバン痛かった)リハビリは、週二回、なかなか大変です。もともとオートバイレースで痛めた背骨のダメージが大きく、コルセットを手ばなせません。そのため、しばらくは体を使って飛ばすF1A、HLGなどなどムリかなあ……。今なにしてるかって? 月2、3回Uコンを飛ばしています(ノーブラ35, 15スタント機)。又もうひとつの趣味でもあるヘラ釣りにって気をまぎらせています。ハイ。8月の新潟には

Uコン機でももって行って飛ばしたいな……と、リハビリに性？を出してします。

P・S連絡が途絶えてスマセン。ケータイまで生き埋めになってしまっていて、決して塀の中に入ったわけでは有りません！！ 近くグリーンパークでも行って見ますのでヨロシク。

2008.6.28 とくめいきぼうの酒飲みより

編集後記

平尾……

* CFFC(中部FFクラブ)は、今竹ひごライトプレーンキットで燃えています。今夏初めての合宿をやって、ミーティング+竹ひごLP作り方講習会を開催し好評だった由。ライトプレーンはCFFCの得意種目というのもありでしょう。日本独特の模型文化である竹ひごの扱いは意外と難しい上に、片面紙張りがこれまた難物で上手に貼ったつもりでも、やたら狂うので困る。古来、模型飛行機入門機とされた竹ひごLPが飛ばなくて、ヒコーキから去っていった多くの子供達。その難物・竹ひごLPが、今後の普及にどう貢献できるのか、CFFCの動きを注目しています。

それと大村氏提案のスチレンペーパー小型被覆胴ゴム動力機(胴体は折り紙方式)も好評のようです。但し、スチレンペーパー機は新品を作るのは楽ですが、一度座屈するとナカナカに使にくい材料です。瞬間接着剤では溶けるので、壊れた時現場で即修理が出来る方法の開発が、これからのメインテーマでしょう。今後の流れを見守りたいと思ってます。

さらにFF電動プレーン。これは私が1997年に提案した事がありますが、その後アメリカで進歩して、そのキットが日本にも入ってきました。そしてイヨイヨ日本でも本格始動しそうな気配です。動力が電動なので、準備も入らずスイッチオンですぐ飛ばせるし、クリーンで静かな競技機です。はたしてこれが、どう定着するのか。いずれ電動機がエンジン機に取って代わると思います。しかし、現在では競技規定は無論の事、機体、モーター、電池等のキマリがアメリカのままに巧くいくのかどうか、又、価格や飛ばす面白さがどの位置に納まるのか、興味津々と言ったところです。

* また脱線です。何と素晴らしい絵画でしょう。アボリジニーの天才画家・エミリー・ウングワレー。

80才近くになって突然泉が湧きあふれるように絵を描き始めて、86才で死ぬまでに3000枚の絵を残したそうです。いい絵を描きたいとは決して思った事もない人の絵です。まるで止めどないようで、緊張していて、なにものにも似ていない。抽象画の様でもあるし、そうでもない。色の洪水の様でもあるが、だが整然としている。まさに超新星で絵画界を真っ白に照らして、今まで努力していた全ての画家を霞んで見えなくしてしまった恐るべき天才。世の中にはこんな人がいるんですね。

高校時代、私の絵の成績はトップでした。そんな思いもあるので絵を描きたいと何度も思ったが、自分が凡才のど真ん中ではないかと思うと、やはりヒコーキがイイ。世の中コワイ、コワイ。

* 酒情報 これまではスーパードライを飲んでいたのだが、年金と相談すると「美味ければ安い方がイイ」と言う事で、最近気に入っている酒にアサヒの「あじわい」がある。こいつ、ビールでも発泡酒でもないリキュール扱いなので、値段は24缶2580円(1缶108円)と安いのに美味しい。ところが、けしからん事に何故か相当大きな店やBig-Aには置いていない。且つ、大部分の店ではばら売りしていない。何故ないのかと店員に聞いてみたが「何故ですかね」とはぐらかされた。勘ぐると、スーパードライ発売当時一人勝ちで品薄になりアチコチ探した記憶がある。今回も安いのに美味しい酒がガンガン売れたのでは、高い酒が売れなくなるので、わざと置いていないだ。皆さんもお試しあれ。

UHLG 835-1

2008.8 by H.Hirao

主翼面積		9.1dm ²
機体重量	主翼	53.7g
	胴体	41.0
	合計	94.7g
翼面荷重		10.4g/dm ²
アバウト		8.2
上反角		16%
帯空性能		58 sec.

